

伊吹島にアサギマダラをよぼうプロジェクト

みなさんは、「渡り鳥」を知っていますか。代表的な渡り鳥のツバメは、夏に日本で過ごし、冬には温かい南の国に渡っていきます。そんな渡り鳥のような「渡り」をする蝶がいるのです。

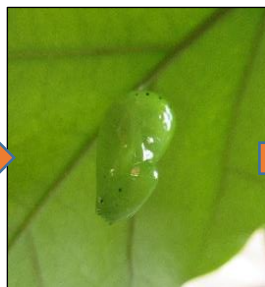
それは「アサギマダラ」という蝶で、日本で唯一「渡りをする蝶」として知られています。体長 10 cm ほどで、アゲハチョウと同じくらい大きさですが、春になると南の台湾や南西諸島から日本の中部地方や東北地方に向けて渡りをします。そして秋になるとまた、南に向けて渡りをするのです。

アサギマダラに関心のある人たちが、観音寺市でアサギマダラの飛来を初めて確認したのは 2013 年 5 月で、「スナビキソウ」が自生する有明浜で見つけました。そして、瀬戸内海上がアサギマダラの飛来ルートではないかと考え、伊吹島をアサギマダラの休息地にしようと「有明の海浜植物とアサギマダラ飛翔会」という会をつくり、2015 年に「飛翔会」の人たちと伊吹島の人たちが伊吹島に 380 本の「フジバカマ」を植えました。そして、その年の 10 月に 5 頭のアサギマダラの飛来を確認しました。



2016 年、伊吹小・中学校では「伊吹島にアサギマダラをよぼうプロジェクト」を開始し、「飛翔会」の人たちの協力で校庭に「フジバカマ」を植えました。その年、学校に飛来した数は 110 頭。その後、2017 年は 79 頭、2018 年は 74 頭、2019 年は 71 頭が小中学校の校庭に飛来しています。（飛来数はのべ数。10 月中旬～11 月中旬に飛来。）

2018 年には岡山県の方が、小・中学校に「キジョラン」の苗を贈ってくれました。この葉にアサギマダラが卵を産むのです。大事に育てると、2019 年秋に「キジョラン」の葉の裏に 14 個の卵が確認され、やがて幼



虫となり、そのうち 3 頭がさなぎに、そして 2 頭が羽化しました。

今年 2020 年には「飛翔会」の方から小・中学校に「スナビキソウ」の苗をいただき、現在順調に育てています。来年の春にはこのスナビキソウにもアサギマダラが飛来することを楽しみにしています。

アサギマダラの生態は、まだはっきりとわかっていないことが多いそうです。飛行ルートもその一つ。

みなさんは、アサギマダラの移動がどのようにしたら分かると思いますか。一頭の飛んだ距離や場所が分かるなんて不思議ですね。

飛行ルートを調べるために「マーキング」という活動が行われています。マーキングは特別な知識や技術はいらないので、だれでも簡単にできます。あなたも参加してみませんか。



伊吹小・中学校のマーキング例

(2019年10月17日のもの)

蝶を捕まえたら、油性マジックで羽根に「場所」「日付」「番号」「名前」を記入します。

「カ・イブ」…カガワ・イブキの略

「19.10.17」…日付（年はなくてよい）

「オオタ」…とった人の名前

この後に「オオター1」など、番号を付けるとよい

写真のマーキングをしたアサギマダラを別の場所で捕まえたとしたら、伊吹島からその場所まで何日かけて飛んで行ったかが分かります。このようにしてマーキングによって飛行ルートが調査されています。

さて、ルート以外にもアサギマダラの生態は、まだまだ分からないことだらけ。興味のある人は、研究してみませんか？

(よくわかっていないこと)

- ① なぜ、渡りをするのか。
- ② 春にどこまで北上するのか。
- ③ 秋にどこまで南下するのか。
- ④ どのくらいの距離をどんなルートで移動するのか。
- ⑤ 夜も渡りをするのか。
- ⑥ 渡りをするためのエネルギーはどうしているのか。
- ⑦ 冬の寒さをどのように防いでいるのか。
- ⑧ 渡りをしない期間は、どこで何をしているのか。 などなど

最後に、伊吹島でアサギマダラが蜜を吸う「フジバカマ」をたくさん植えている場所は次の5カ所です。ぜひ、観察してみてくださいね。

- ①旧小学校の校庭
- ②伊吹民俗資料館中庭
- ③伊吹小中学校
- ④北浦の小公園
- ⑤金田一春彦先生の歌碑から少し上った所